



青少年文化交流プログラム in 沖縄
2013年1月11-14日





OKINAWA MARINE

JANUARY 11-14, 2013

WWW.OKINAWA.USMC.MIL

在沖海兵隊員が大島の子供たちを歓迎



1月11日、キャンプ・フォスターの青少年センターで、バスケットボールの得点を入れるプログラムアシスタントのコロンブス・ウィルソンさんと、それを見て微笑む大島小学校5年生で11歳の桜田義人君。4日間の青少年文化交流・ホームステイプログラムの一環として、大島小中学校の桜田君と他23名の生徒が沖縄を訪問。子供たちは、沖縄滞在中、図工やゲーム、日曜日のランチ、アメリカの学校訪問などに参加し、1月14日に沖縄を発つ予定。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

ダニエル・E・ヴァリ上等兵
オキナワマリン
2013年1月11日

宮城県気仙沼大島から来た子供24名と引率者6名が、1月11日に在沖海兵隊基地キャンプ・フォスターの青少年センターに到着し、第2回青少年文化交流・ホームステイプログラムに参加しました。

このプログラムは、2011年3月に発生した東日本大震災の後、大島の子供たちにストレスのない環境で夏休みを楽しんでもらうことを目的として発足しました。

海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・D・

エルドリッジ氏は、「今日は4日間のホームステイプログラムの初日です。大島の子供たちに沖縄に駐留している海兵隊員やその家族と一緒に数日間を過ごしてもらうホームステイプログラムを実施するのは、今回で2回目となります」と説明しました。

このホームステイプログラムに参加したのは、大島の小学4年生から中学2年生の生徒たちです。

ホームステイプログラムの代表団を務める気仙沼市議会議員の菅原博信さんは、「震災があった2011年の夏に、海兵隊が私たちを沖縄に招待してくれて、前回は25名の子供が沖縄を訪問しました。海兵隊員との親密な関係を維持していきたいと思っています。今年

はお互いに学び合えるようにと、大島の子供たちがアメリカンスクールを訪問する機会も設けられているようです」と語りました。

この交流プログラムに参加している中学一年生で13歳の千葉大介君は、沖縄での滞在をみんなが楽しみにしていると話しています。

千葉君は、「沖縄に行くのは初めてなので、沖縄に行くことも、ホームステイ先の海兵隊員の家族と一緒に過ごすことも楽しみ」と述べていました。

子供たちは、1月14日までの滞在期間中、図工やゲーム、日曜ランチ、アメリカンスクールの訪問など、様々なイベントに参加する予定です。

IN THIS
ISSUE

海兵隊員が大島の
子供たちを歓迎
P2

大島の子供たち、様々な
イベントを楽しむ
P3

大島の子供たちが
小学校の授業に参加
P4-5

海兵隊員、大島の子供
たちに別れを告げる
P6

大島の子供たち、様々なイベントを楽しむ

ダニエル・E・ヴァリ上等兵
オキナワマリン
2013年1月12日

在沖海兵隊基地キャンプ・フォスターの青少年センターでは、1月12日、第2回青少年文化交流プログラムの一環として、宮城県気仙沼大島から来た子供たちのために、図工をはじめ、バスケットボールや卓球、テレビゲーム対戦などの楽しいイベントが開催されました。

2011年3月に発生した東日本大震災後に発足したこの交流プログラムは、東北地方が震災から復興する中、夏休みの期間中に大島の子供たちにストレスのない環境でリラックスしてもらおうと計画されたものです。今年の訪問は、日米の子供たちが様々な文化を共有し、お互いに学びあうことに焦点を当てています。

米海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・D・エルドリッジ博士は、「この経験で子供たちの視野が広がり、私たちが彼らのことを気に掛けているということを知ってもらえたらいいですね。海兵隊太平洋基地司令官のピーター・J・タレリ少将と第三海兵遠征軍司令官のケネス・J・グラック中将も、このプログラムを強く支援しています。このような考えを受け入れてくれる幹部と一緒に仕事ができて光栄です」と自身の感想を述べました。

このようなイベントは、海兵隊の基本理念を明示し、海兵隊員が関心を持っていることを示すものとエルドリッジ博士は説明しました。

「海兵隊は、この関係を尊重しています。海兵隊員が、何をする時にもいかに名声、勇気、献身を実践しているかを表すものだからです。『友にするには最高の相手であり、敵にするには最悪の相手である』とよく言われますが、この関係は、海兵隊員が最高の友であることや海兵隊員が何に長けているかを示しています」とエルドリッジ博士は続けて説明しました。

海兵隊員やその家族が自分の家に子供たちを招き入れるなど、あらゆる面で海兵隊はこのプログラムを支持してきました。

普天間基地司令部・司令部飛行隊航空管制上級下士官のリカルド・クレイトン曹長は、「受入国である日本に対して、私たちがこの国のゲストであることに感謝



1月12日、キャンプ・フォスターの青少年センターで、今回で2回目となる青少年文化交流・ホームステイプログラムに参加している(大島の)子供たちが、ボランティアの海兵隊員とその息子がビデオゲームの操作方法を実演している様子を見ているところ。ボランティアでホストファミリーを引き受けたマリア・クレイトンさんは、ホストファミリーは子供たちが生涯忘れることのない思い出と共に帰路につくことを願っていると話す。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

していると伝える素晴らしい機会だと思います。私たちが地域社会に関心があることを示す素晴らしいプログラムだと思います」と語っています。

ホストファミリーを買って出たマリア・クレイトンさんは、子供たちが一生の思い出を胸に帰路につくことをホストファミリーは願っていると話しています。

クレイトンさんは、「うちに滞在した子供たちが楽しく過ごして、私たち家族との素敵な思い出と共に帰ってもらえたら嬉しいです。自分の文化を子供たちと共有できることに感謝しています。プログラムに参加できて嬉しく思いますし、子供たちが私たちから学ぶのと同じくらい私自身も子供たちから学びたいと思います」と話していました。

大島小学校6年生で12歳の小山瑞稀君は、「楽しかったです。滞在先のホストファミリーは親切でした。こ

の旅行で一番楽しかったのは水族館に行ったことです」と、ホストファミリーと楽しい時間を過ごせたと話しています。

ホームステイ先の子供たちもまた、同様に楽しく日本文化を学ぶことができました。ホストファミリーのエロンゾ・ヒギンソン君12歳は、「コミュニケーションを取るのが大変な時もあるけど、お互いが楽しいと思うことを見つけるのはそんなに大変じゃない」と述べ、「昨日はバスケットやビデオゲームをしたし、今日はもっと沢山一緒に過ごせている」と付け加えた。

このプログラムでは、将校クラブでの日曜ランチやホストファミリーの子供が通うアメリカンスクール半日体験など、沢山のグループ活動に参加しました。また、各ホストファミリーは、子供たちをサーカスや沖縄美ら海水族館など色々な場所へ連れて行く予定です。



1月12日、キャンプ・フォスターの青少年センターにて、米軍ボランティアの家族と一緒に第2回青少年文化交流・ホームステイ・プログラムの料理教室に参加する日本の子供たち。「この経験で子供たちの視野が広がり、私たちが彼らのことを気に掛けているということを知ってもらえたらいいですね」と、米海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・エルドリッジ博士は話す。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



1月14日、キリン小学校で5年生を担当するメラニー・ホートン先生に勧められて、絵に色を塗る大島の小学4年生で10歳の菊田航君。菊田君は海兵隊福利厚生部が主催する4日間の青少年文化交流・ホームステイ・プログラムに参加。大島から参加した24名の生徒は、キャンプ・フォスターでボランティアの家族の家に滞在し、沖縄観光や海兵隊の文化に親しんだ。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

大島の子供たちが小学校の授業に参加

ダニエル・E・ヴァリ上等兵
オキナワマリン
2013年1月14日

第2回青少年文化交流プログラムの一環として沖縄を訪れている宮城県気仙沼市大島の生徒が、1月14日、在沖海兵隊基地キャンプ・フォスターのキリン小学校を訪問しました。

このプログラムは、2011年3月11日に発生した東日本大震災後に発足され、震災後に大島の子供たちにストレスのない環境で夏休みを楽しんでもらおうと計画されたものです。

この訪問中に、大島の子供たちは、同年代のアメリカ人の生徒たちと共に図工や体育、日本文化の授業を受けました。

大島小学校5年生で12歳の小山瑞稀君は、「図工の授業では、絵を描くのが一番楽しくて、今日は学校で楽しく過ごしました。また沖縄に戻ってきたい」と話していました。

大島の子供たちだけでなく、アメリカの子供たちも同様に訪問を楽しんだとキリン小学校5年生で12歳のリュウマ・マーフィー君は述べています。

マーフィー君は、「クラスで一緒に勉強できてよかったです。ほとんどの生徒が言葉の壁に悪戦苦闘していたので、日本語が話せる僕が会話の通訳をしました」と話していました。

キリン小学校の職員もこの訪問を喜んでおり、大島の生徒が楽しめるような和やかな雰囲気作りをしました。

日本文化の授業を担当する宇座かおる先生は、「私の授業に参加してくれたので楽しかったです。最初は少し恥ずかしそうにしていたのですが、授業の最初に英語で自己紹介をしたら少しは居心地がよくなったよう

です。沖縄に滞在している間は、歓迎されていると感じてもらえたら良いですね」と話していました。

MCCSIは、今年の8月にもまた大島の子供たちが沖縄を訪れる機会を設けたいと計画しています。



青少年文化交流・ホームステイプログラムで一緒にアート体験をする宮城県気仙沼大島の子供たちとアメリカの生徒たち。このプログラムは、2011年3月に発生した破壊的な地震や津波の後、大島の子供達にストレスから解放された環境の中で休日をご一緒してもらうために計画されたもの。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

Forging Friendships



1月11日、キャンプ・フォスターの青少年センターで、大島小学校5年生で11歳の村上祐二郎君に向かってサーブをする同センタープログラムアシスタントのコロンブス・ウィルソンさん。村上君他23名の大島小学校・中学校の生徒達は、4日間の青少年文化交流・ホームステイプログラムに参加するため沖縄を訪問。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

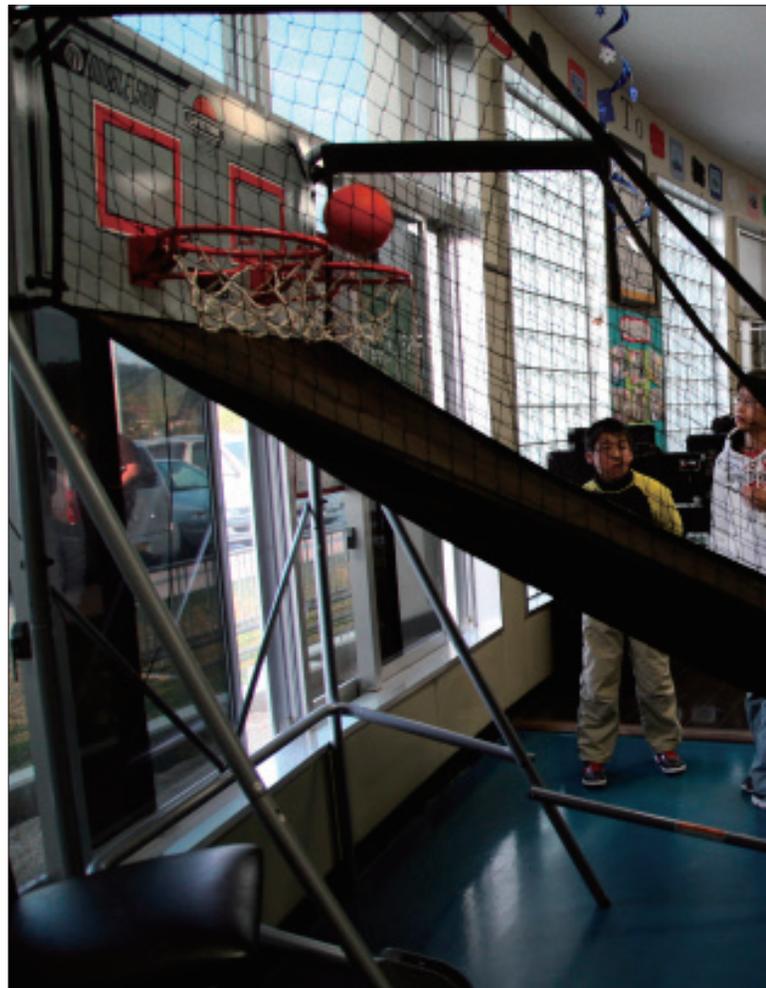


1月11日、第三海兵遠征軍第1海兵航空団第1海兵隊航空団司令部飛行隊訓練・軍事作戦S-3訓練担当チーフのシェリル・L・キング二等軍曹と娘のアバちゃんが、キャンプ・フォスターの青少年センターで、村上直弥君と小野寺紗椰さんからプレゼントを受け取る。青少年文化交流・ホームステイプログラムには、子供24名と付き添い6名が参加した。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



1月13日、バター将校クラブで、日曜ランチを前に一緒に座る米海兵隊太平洋基地の司令官ピーター・J・タレリ少将と、ホームステイプログラムの代表者で気仙沼市議会議員の菅原博信氏。タレリ少将と菅原氏は、青少年文化交流・ホームステイプログラムについて話し合った。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

1月11日、キャンプ・フォスターの青少年センターで、バスケットボールの得点を入れるプログラムアシスタントのコロンブス・ウィルソンさんと、それを見て微笑む大島小学校5年生で11歳の桜田義人君。4日間の青少年文化交流・ホームステイプログラムの一環として、桜田君他23名の大島小中学校の生徒が沖縄を訪問。
写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



1月14日、キャンプ・フォスターの青少年センターでバスケットボールのゲームをするプログラムは、2011年3月に発生した東日本大震災後に発足され、大島の子供たちにスアリ上等兵



1月13日、青少年文化トレスのない環境で



文化交流・ホームステイプログラムに参加している大島の子供たちが、バトラー将校クラブでの日曜ランチに来た人たちに「島中ソーラン」を披露。このプログラムは、大島の子供たちにストレスを減らし、夏休みを楽しんでもらうことを目的としていた。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



第2回青少年文化交流プログラム参加者の宮城県気仙沼大島の生徒たち。このプログラムは、大島の子供たちにストレスのない環境で過ごしてもらうことを目的としていた。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



1月11日、海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・D・エルドリッジ氏と海兵隊福利厚生部家族支援支部長のクレン・オオハシ氏が、青少年文化交流・ホームステイプログラムで沖縄に来た宮城県気仙沼大島の生徒たちを歓迎。このプログラムは、2011年3月に発生した東日本大震災後に発足され、当初は、大島の子供たちにストレスのない環境で過ごしてもらうことを目的としていた。 写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵

Sharing Culture

海兵隊員、大島の子供たちに別れを告げる

ダニエル・E・ヴァリ上等兵
オキナワマリン
2013年1月14日

宮城県気仙沼大島から来た子供24名と引率者6名は、楽しく過ごした4日間の沖縄訪問を終え、ホストファミリーや関係者に別れを告げて、1月14日に帰路につきました。

東北地方や大島は、2011年3月11日に起きた東日本大震災で壊滅的な被害を受け、大島は混乱状態となりました。在沖米海兵隊は、大島の人々が助けを必要

としている時に、救援活動の一環として大島の子供たちを受け入れることを思いついたのです。

ホームステイプログラムの代表を務める気仙沼市議会議員の菅原博信さんは、「震災後の2011年の夏に、海兵隊から沖縄に招待されました。これからも大島と海兵隊との親密な関係を維持していきたいと思っています」と話しています。

夏休み期間中に子供たちを荒廃した場所から連れ出し、楽しい時間を過ごしてもらうのは大切なことだったと、海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・D・エルドリッジ博士は説明しています。

軍人の家族は、ボランティアのホストファミリーとして家を開放し、沖縄を案内したり、地元の観光地を回ったり、図工やスポーツ、ボードゲームをしたり、子供たちのために開催された日曜ランチに参加したりして、子供たちとの時間を共有しました。

大島小学校6年生で12歳の小山瑞稀君は、「楽しかった。ホストファミリーは親切で、この旅行で一番楽しかったのは水族館へ行ったこと」と話しました。

訪問4日目に、子供たちはホストファミリーの子供が通うE.C.キリン小学校の授業に参加する機会を得て、アメリカの子供が通う学校の様子を垣間見ることができました。

エルドリッジ博士は、「この経験が子供たちの視野を広げ、私たちが彼らのことを気に掛けているということを知ってもらえたらいいですね。海兵隊太平洋基地司令官のピーター・J・タレリ少将と第三海兵遠征軍司令官のケネス・J・グラック中將も、このプログラムを強く支援しています。このような考えを受け入れてくれる幹部と一緒に仕事ができ、光栄です」と話しています。

タレリ少将は、「青少年文化交流プログラムは、この特別な友好関係を継続して維持したいという私たちの強い想いを表しています。この交流は、大島の小中学生25名がホームステイプログラムを通して沖縄を訪問した2011年にスタートしました。2011年3月11日に地震や津波が起きて日本が打撃を受けた時に海兵隊が日本人の支援を行い、その日以来、大島と非常に特別な友好関係を維持してきました」と話しています。

青少年ホームステイ文化交流プログラムは、繰り返し実施されるイベントとして、8月に再度行なわれる予定だとエルドリッジ博士は話しています。



1月14日、キャンプ・フォスターの青少年センターで、大島の生徒と付き添いが4日間の訪問を終えて別れを告げる前に、記念品を交換するホームステイプログラムの代表者で気仙沼市議会議員の菅原博信氏(左)と海兵隊福利厚生部(MCCS)参謀補佐官のスティブン・ポーリー氏(右)。ポーリー氏は菅原氏にMCCSの記念コインを手渡した。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



1月14日、海兵隊福利厚生部家族支援支部長のクレン・オオハシ氏と海兵隊太平洋基地政務外交部次長のロバート・D・エルドリッジ博士の別れの挨拶に耳を傾けるアメリカと大島の子供たち。写真:ダニエル・E・ヴァリ上等兵



参加者

菊田 航	小学4年生
小野寺 裕	小学5年生
小野寺 龍将	小学5年生
桜田 義人	小学5年生
菊池 海成	小学6年生
門間 拓夢	小学6年生
村上 道一	小学6年生
小野寺 海哉	小学6年生
小野寺 愛紘	小学6年生
小山 瑞樹	小学6年生
菅原 碧	小学6年生
千葉 大介	中学1年生
畠山 呼人	中学1年生
伊藤 英司	中学2年生
菊田 聖也	中学2年生
小松 希依	中学2年生
村上 愛	中学2年生
村上 直弥	中学2年生
村上 夏海	中学2年生
村上 祐次郎	中学2年生
小野寺 紗椰	中学2年生
小野寺 真	中学2年生
小野寺 将太	中学2年生
小野寺 優太郎	中学2年生
川崎 克寛	引率者
村上 美加子	引率者
小野寺 京子	引率者
小野寺 美智枝	引率者
菅原 博信	引率者
菅原 桂子	引率者

× 毛





青少年文化交流プログラム in 沖縄

2013年1月11-14日

